



FRRIENDS

山梨県立かえで支援学校相談・支援通信 第56号 平成27年3月発行

※「フレンズ」は、かえで支援学校の校歌(杉本竜一氏作)です。本校HPにてお聴きください。

今年度の教育相談・訪問支援等の実績報告

| 相談支援の内容・支援先 | 幼稚園保育園 (幼児) | 小学校 (小学生) | 中学校 (中学生) | 高等学校 (高校生) | その他 (病院・過年生等) |
|--------------------------|----------------|--------------|--------------------------|---------------|------------------|
| 教育相談・学校見学 (メール・電話も含む) | 45人 (45) | 18人 (25) | 本校48人 分教室118人 (80) | 分2人 (3) | 2人 (0) |
| 訪問支援 | 83人 (72) | 126人 (72) | 11人 (15) | 0人 (0) | 0人 (0) |
| 研修支援 | 0回 (4) | 12回 (7) | 0回 (2) | 0回 (1) | 3回 (16) |
| 個別授業体験 | 4人 (3) | 5人 (6) | 本校16人 分教室36人 (36) | 0人 (0) | 0人 (0) |

人数と
回数は、
のべ数
です。
()は
25年度
分

* オープンスクール、夏休み授業体験会の参加人数は含まれていません。



▶ 傾向 その1

保育所・小学校への訪問支援が増加しています。そのほとんどが通常の保育、通常の学級の中の気になる子の相談です。

▶ 傾向 その2

中学校の訪問相談の件数は減っていますが、保護者からの依頼で学校に訪問するケースが増えています。相談の主な内容は学力不振です。



▶ 傾向 その3

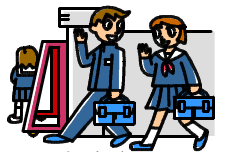
福祉からの依頼で訪問支援するケースが複数ありました。家庭支援や困難なケースであることが多く、行動の見取りやより適切な支援・連携をする専門性が求められるようになってきました。特別支援学校のセンター的機能についての活用が広がっていることが確認されました。

▶ 傾向 その4

昨年度と同様に校内委員会で協議されてから、訪問支援を依頼するケースが増えてきました。その反面、管理職やコーディネーターが変わると手続き等わからなくなってしまうという学校もまだあります。

▶ 傾向 その5

中学生の来校相談は、昨年度と同様に高等部進学に関するものがほとんどでした。通常の学級や自閉症・情緒特別支援学級から本校への進学希望も何件もあり、既に二次障害を起こしている生徒もいました。また、明らかに知的障害が認められるのに通常の学級や自閉症・情緒特別支援学級に在籍していた生徒もいました。



進学間際になっての相談でなく、中学校在籍の早い時期から個に応じた学習や支援がされることを望みます。気になる生徒で指導が上手くいかない場合には、早めの相談や対応をお願いしたいと思います。

▶ 傾向 その6

幼稚園や保育園の相談園児は昨年度と同様に数多くいますが、実際に訪問したのは、5園です。その内のいくつかの園には数年の継続支援の幼児も多く、先生や保育士と一緒に子どもの成長について考えています。年に数回の訪問ですが、園自体に特別支援教育の力がつき、言葉かけや教室環境づくり等適切になってきています。早期支援は大切であり、支援を早くすることで予後が良いことは確実なので、気になる幼児のいる園は、ぜひ御相談ください。

▶ 傾向 その7

今年度の高等学校の相談はありませんでした。(分2は桃花台受検関係) 富士見支援学校での「高等学校に在籍する発達障害者等サポート事業」が開始されたことが影響していると思われます。



▶ 傾向 その8

相談機関は増えていますが、直接子どもにかかわってもらえる療育機関等は不足しています。指導する保護者や教員へのアドバイスだけでは十分でない場合も多いので、発達障害を熟知したスクールカウンセラー等が小中学校には必要であると思われます。

